

ラテン、ジャズ、クラシック・・・ジャンルを超えるピアニスト

## 塩谷 哲

SATORU SHINOYA, Piano

東京藝術大学作曲科在学中より約10年に渡るオルケスタ・デ・ラ・ルスメンバーとしての活動（1993年国連平和賞受賞、95年米グラミー賞ノミネート）を経て、ソロアーティストとして現在まで12枚のオリジナルアルバムを発表。自身のグループの他、小曽根真(p)との共演、佐藤竹善(vo)との“SALT&SUGAR”、上妻宏光(三味線)との“AGA-SHIO”の活動や、リチャード・ストルツマン(cla)、渡辺貞夫、村治佳織、古澤巖、渡辺美里らとの多数のコラボレートその他、クラシック演奏、ビッグバンドやオーケストラ・アレンジ等、また近年は絢香のサウンドプロデュースに参加している。

メディアではNHK『名曲アルバム』にオーケストラ・アレンジを提供する他、NHK-Eテレ『趣味Do楽“塩谷哲のリズムでピアノ”』（2014年）、フジテレビ系ドラマ『無痛-診える眼-』（2015年）、現在はNHK-Eテレ音楽パペットバラエティー番組『コレナンデ商会』（2016～）の音楽を担当している。2012年より国立音楽大学講師。（敬称略）

塩谷哲オフィシャルホームページ <https://www.earthbeat-salt.com>

## 現代クラリネット界のレジェンド！ リチャード・ストルツマン

RICHARD STOLTZMAN, Clarinet

その技巧性、音楽のセンス、人を惹きつけてやまない比類ない個性によって、今日最も求められる演奏家の一人としての地位を確立した。数多くのオーケストラとの共演を重ねるソリストとして、魅惑的なリサイタリストとして、革新的なジャズ奏者として、またクラリネットという楽器に対し、独自のアプローチをもっているストルツマンは、彼以前の誰も予言し得なかったクラリネットの可能性を拡げてみせ、そのことによって国際的な名声を獲得したのである。彼は、ハリウッドボウルとカーネギーホールでクラリネット・リサイタルを行った最初のアーティストであり、エヴリー・フィッシャー賞を受賞した最初の管楽器奏者でもある。リチャード・ストルツマンのディスコグラフィは70を優に超えており、リチャード・グードとの共演で録音したブラームスのソナタ、さらにヨーヨー・マとエマニュエル・アックスと行ったモーツァルト、ベートーヴェン、ブラームスの三重奏曲集で、2度グラミー賞を受賞している。

2017年は75歳を記念にソニー・クラシカルより40枚CDボックスセットがリリースされた。

リチャード・ストルツマン オフィシャルホームページ

<http://www.richardstoltzman.com/>

## 巨匠チック・コリアや スティーヴ・ライヒが絶賛するマリンバ奏者 ミカ・ストルツマン

MIKA STOLTZMAN, Marimba

熊本・天草出身。マリンビスト。2008年からNY拠点に演奏活動を展開し7回に渡るNYカーネギーWeill&Zankelホールでのリサイタル成功を始め、世界各地での音楽祭への招聘演奏など、これまで世界18カ国60都市以上で公演。

近年においてはS.ライヒ、チックコリア、ジョンゾーン、大島ミチル等作曲家が曲を捧げ世界初演する他、スティーヴ・ガッドとのプロジェクト“ミカリンバ”で2枚のジャズCDとDVDをリリースしブルーノート東京などの主要ジャズクラブやジャズフェスティバルにも出演。ソリストとしてはメキシコ・ハラパ交響楽団やイタリア・マッキャベリ管弦楽団に招聘されてチックコリア作曲“協奏曲第1番”を協演。

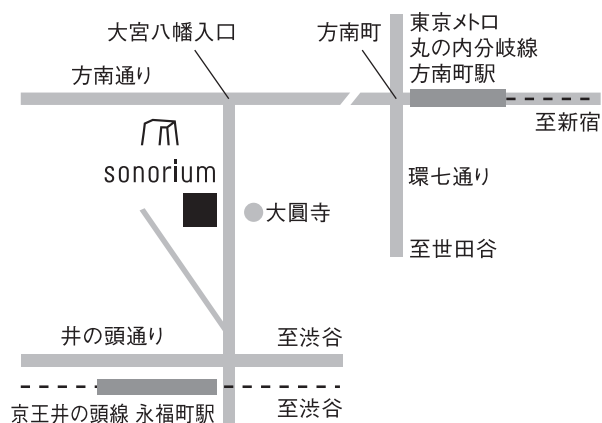
2014年からは夫リチャード・ストルツマンとのDUOを本格的に開始してアメリカ、ドイツ、香港、アラスカ、アルゼンチンでの音楽祭に多数出演。

又2016年は夫リチャードとの初DUOアルバム(CD)をグラミー賞17回受賞プロデューサーSteve Epsteinと制作。このアルバムにはチック・コリアとの共演やBMOPオーケストラとの協演が含まれ、2017年日本コロムビアとUSサヴォイからリリースされた。

今年2018年は既にクラシカルとジャズの2枚のCD録音プロジェクトが進行中である。

ミカ・ストルツマン オフィシャルホームページ

<http://www.mikarimba-Stoltzman.com/>



## sonorium (ソノリウム)

東京都杉並区和泉3-53-16 TEL 03-6768-3000

<http://www.sonorium.jp> ☑ [hall@sonorium.jp](mailto:hall@sonorium.jp)



京王井の頭線 永福町駅下車(北口) 徒歩7分  
東京メトロ丸の内線 方南町駅下車 徒歩10分

お車でのご来場はご遠慮いただきますようお願いいたします